

LIBERTY LONDON

斬新なスタイルの組み合わせ

Tom Bottomley

ロンドンのリバティ百貨店でメンズファッションのシニアバイヤーを務めるベン・アンドリュースが、メンズウェアの鍵となるトレンドと次のバイイングシーズンについてWeArに語ってくれた。



Ben Andrew

リバティのメンズウェアが次のステップに進むためには、何を取り入れるべきだと考えていますか？

さらにエクスクルーシブなものを求めています。今までよりも興味を惹き付け、他とは異なり、まだ誰も見つけていないブランドや商品です。アクネ ストゥディオズ、ドリス・ヴァン・ノッテン、メゾン マルジェラ、A.P.C.といった弊社で順調な売り上げを記録している主力ブランドを補完する、何か新しいものを意識的に探しています。ドリスは、弊社のお客様の心に深く共鳴しており、特に存在感のあるブランドだと言えます。

新しいシーズンでのバイイングの計画に影響を与えるような、重要なトレンドはありますか？

個人的に言って、ヴィンテージの波が再びやってくると考えています。ウォッシュのかかったデニムやLA風のルックを、より多く目にするようになるでしょう。デニムが力強い復活を見せるということは、ヴィンテージや摩耗加工を施したデニムが、重要な部分を占めることが予想できます。2016年春夏で初めて取り入れたBeams Plusには、エンジニアードガーメンツやラルフローレンのRRLラインに見られるような、ヴィンテージアメリカンな空気が満ちています。価格帯で言えば、特にジーンズやシャツがより手に取りやすくなっており、ビジネスの上ではありがたいことですが、人々がそれを求めて足を運び、高いお金を支払い、ブランドに価値を与えるものは、やはりとても特別なアイテムだと言えます。

よりクリーンなルックが浸透してきたのではないのでしょうか？

そうですね。けれども、誰もがよりスポーツウェアの影響を受けたクリーンなルックへと向かっています。ですから、ヴィンテージのスタイルがより好まれるようになり始めているのだと思います。完全にクリーンなルックだけが、長く続くと思います。そうでなければ、すぐに飽きられてしまいます。

あなたにとって重要な展示会とはどこですか？

通常、ピッティウオモからスタートします。そしてパリへ向かい、ManとCapsuleをチェックします。ロンドンのJacket Requiredにも行きますね。この4か所が、私たちにとって非常に重要な展示会です。

WeAr Selectが、1月にロンドンでスタートします。巧みに編集されたプレミアムクラス向けの国際展示会を、ロンドンコレクションメンと同時期に開催するというコンセプトについてどう思われますか？

とても素晴らしい新イベントだと思います。なぜなら、パリやミラノがそうであるように、ファッションウィークと並行して展示会を行うのはとても意義のあることだからです。ファッションのランウェイショーは華やかで、プレスにも良い効果がありますが、バイヤーならば、そのアイテムを直接その目で見て触れてみたいと思うものです。London Collections: Menは非常に“ショー中心”なので、この展示会の要素が欠けていると思うのです。目に楽しいショーとの良いバランスを生む、優れた機会になると思います。

